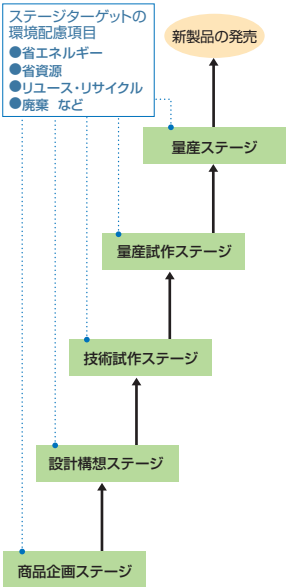


製品の開発・設計における取り組み

理想科学は、製品企画の段階から製品のライフサイクルを見据えた開発を行うことにより、製品をお使いいただくお客様先の環境負荷低減に貢献するよう努めています。

解説1 環境配慮の実施プロセス



研究開発の基本姿勢

「世界に類のないものを創る」を開発方針として、当社は「リソグラフ・システム」に代表される独自のプリント技術を核に、先進のプリントソリューションを提供するさまざまな製品の開発を、総合的に実施してきました。また、ハイスピードカラープリンター「オルフィスHC5500」で採用されているインクジェット技術などの新技術分野でも積極的に研究開発を行っています。

その先進的な開発姿勢は創業以来の伝統として脈々と受け継がれてきており、当社の代表的製品である「リソグラフ」の最新機種「リソグラフRZ6シリーズ」における環境負荷低減設計や、「RISO SOY インク」などの環境配慮型製品の開発にも活かされています。

環境配慮設計責任者の設置

開発本部のEMS体制では「環境配慮設計責任者」を設置しています。

環境配慮設計責任者は、製品への環境配慮設計の要求・目標が個々の製品開発に確実に落とし込まれているか、を管理する役割を担うもので、取り組みのPDCAが確実に回るよう進捗管理を行います。

環境配慮責任者設置の狙いは、製品への環境配慮をより一層徹底することにあります。

事業活動そのもののEMS運用状況を管理する「環境管理責任者」とは別に、製品における環境配慮活

製品への環境配慮の実施プロセス

当社は、商品企画から量産にいたる過程を5つのステージ^{解説1}に分割し、製品に対する環境配慮を実施しています。各ステージでは「ステージターゲット」を設定し、その達成度および計画の進捗状況を確認のうえ、次のステージに移行できるかどうかを判定しています。

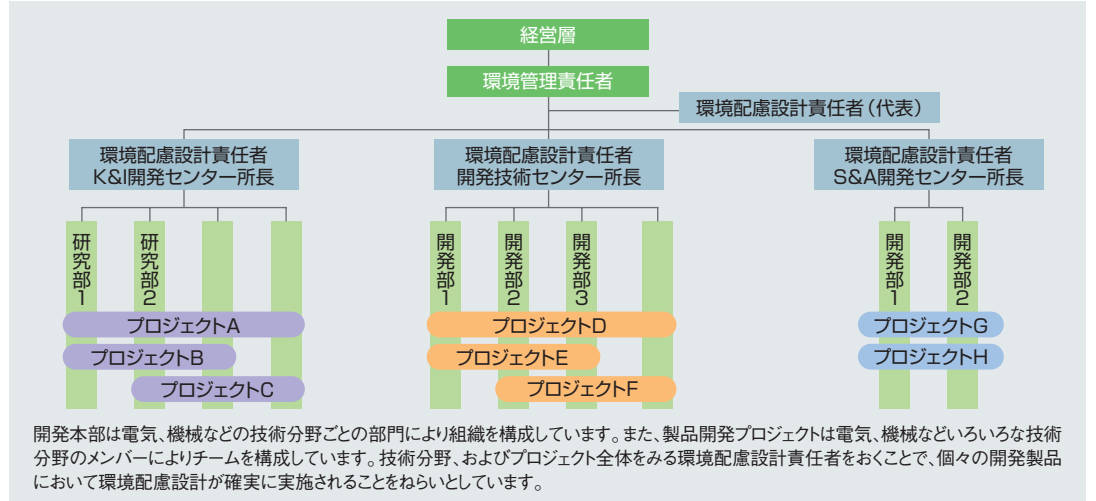
ステージターゲットの設定事項とは、品質、コスト、日程、環境配慮などに関するもので、そのなかの環境配慮項目には省エネルギー、省資源、リユース・リサイクル、廃棄などに関する課題が含まれています。このプロセスに忠実に従いつつ、設定したターゲットを確実にクリアしていくことによって、製品に対する配慮が確実に行われることになります。

動を専任で管理します。

製品の環境配慮については研究・ハードウェア開発、ソフトウェア開発など異なる分野ごとに環境配慮設計責任者をおくとともに、個々の製品開発プロジェクトについて、ステージターゲット^{解説1}ごとの進捗管理に責任を持つ代表環境配慮設計責任者を設置しています。これにより、QMSのプロセス管理のなかにEMSの環境配慮設計を取り込んで一体となった運用を行っています。【体制図参照】

開発本部EMS体制図

(2008年4月1日現在)



開発本部は電気、機械などの技術分野ごとの部門により組織を構成しています。また、製品開発プロジェクトは電気、機械などいろいろな技術分野のメンバーによりチームを構成しています。技術分野、およびプロジェクト全体をみる環境配慮設計責任者をおくことで、個々の開発製品において環境配慮設計が確実に実施されることをねらいとしています。

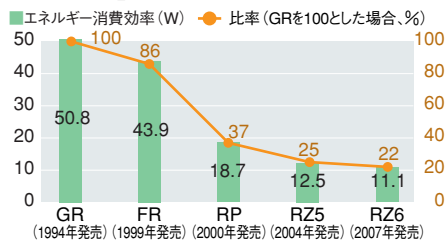
製品における環境配慮

学校や官公庁、企業のオフィスなど、幅広いお客様にご利用いただいているデジタル印刷機「リソグラフ」。
1台のリソグラフには、環境負荷を削減に向けたさまざまな技術と想いが込められています。



さらなるエネルギー消費効率の低減を実現!

「リソグラフ」シリーズのエネルギー消費効率*



*グリーン購入法のデジタル印刷機の判断基準に記載されているエネルギー消費効率の算定方法により算出しています。
B4サイズ機

- ・省インクモード搭載
- ・ふたとテールキャップにインクボトルの再生材を使用
- ・インクの粘度低減による印刷負荷低減
- ・ソイインクを採用

